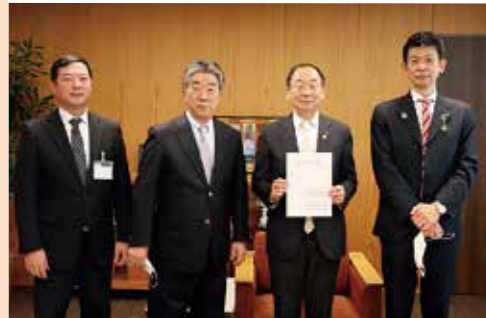


稲作経営安定への支援を要請

米の需要減退などによる令和3年産米の概算金の下落を受け、当JAから管内の秋田市、男鹿市、潟上市に稲作経営の安定に向けた支援を要請しました。米価の下落が農業経営に大きな影響を及ぼしていることから、主食用米から水田活用米穀や園芸品目への転換、次期の稲作の生産費などへの助成を求めました。

佐藤広美組合長と吉田文勝副組合長、長谷川清仁営農経済部長が秋田市役所を訪れ、穂積志秋田市長に要請書を手渡ししました。要請書を受け取った穂積市長は「コロナ禍などによって生産者の営農意欲がなくならないように、今後も応援していきたい」と話しました。



安定した農業経営に向けた支援を求めました

「あぐりんなかいち」が7周年

当JAの直売所「あぐりんなかいち」がオープンから7周年を迎えました。12月18日(土)に日頃の感謝を込めて、7周年を記念した周年祭が開かれました。

秋田市産のホウレンソウやダイコンなどが7周年にちなんで特価の77円で並んだほか、抽選会なども行われ、地元の農産物を買いたい求める市民でにぎわいました。大豆発酵食品「発酵そみファ」の試食販売や当JA青年部による焼き芋の販売なども、行き交う人々の注目を集めました。

これからも管内の農産物と消費者の皆様が接する場として、活気ある直売所づくりに努めていきます。



7周年を記念して特売の野菜が並んだ店内

NEWS & TOPICS

「サキホコレ」本格デビュー前に3年産を振り返る

12月21日(火)、「サキホコレ」の実績検討会が追分生活センターで行われ、先行作付けをした生産者ら約20名が令和4年の本格デビューを前に、3年産の栽培経過や成分分析結果などを振り返りました。秋田地区営農センターは、従来品種より葉色が淡いため収穫適期の判断に注意するよう呼び掛けました。秋田地域振興局農業振興普及課からは褐色斑点症状の調査結果などが解説され、JA全農あきた肥料農業推進課は専用肥料の特性を紹介しました。

令和3年度は18戸の生産者が9.84ヘクタールで先行作付けや試験栽培を行い、4年度は78戸の生産者が77ヘクタールで栽培する計画です。



3年産「サキホコレ」の成分分析値を確認する参加者

職員7人が新成人に

1月7日(金)、新成人お祝い式がJA秋田なまはげ会館で開かれました。新成人の職員を役員が祝い、今後の活躍を期待して激励しました。

佐藤広美組合長は新成人の職員に記念品を手渡し、「常に感謝の気持ちを忘れずに、自分で決めたことに自信を持って取り組んでほしい。順風満帆で充実した人生になることを祈っている」と呼び掛けました。

新成人の職員は令和2年4月に入組した7人です。7人は今後の抱負を発表し、「責任と自覚を持って仕事に励み、JAを活気づけられる存在になりたい」「JAの戦力になれるように、何事にも頑張っていきたい」などと話しました。



成人を迎えた職員